

陸域環境部会からの報告

鵜殿ヨシ原の保全・再生

1 鵜殿ヨシ原について

鵜殿地区は淀川河口から約 30km 上流の右岸側（大阪府高槻市）に位置し、面積は 70ha 程度である。オオヨシキリの繁殖地で、ツバメのねぐらとなり、多くの貴重な動植物を育んでいる。

また、鵜殿地区では、雅楽に使用される楽器 箏の蘆舌の材料となる良質なヨシが採れ、日本の伝統文化を支えている。また、かつてはヨシを編んだ葺簀の生産も盛んに行われた。ヨシ原を守るため、2 月には地域の伝統行事としてヨシ焼きが行われ、淀川の早春の風物詩となっている。そして春には再びヨシが芽吹き始める。

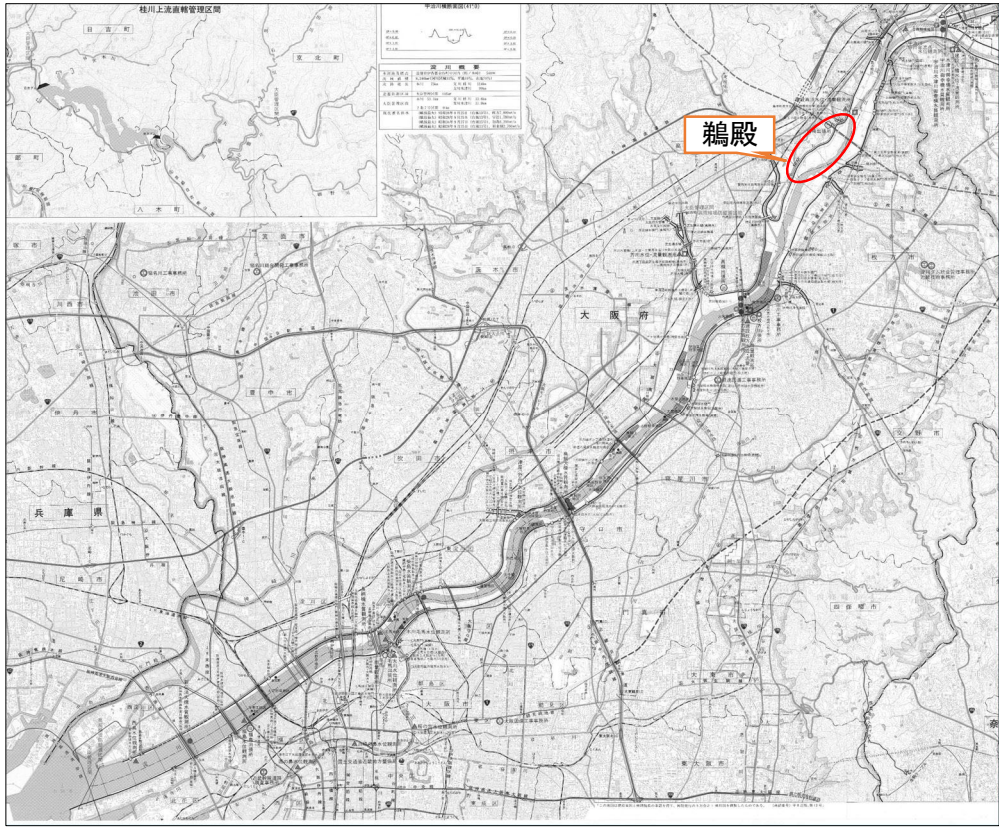


図 1 鵜殿地区の位置



写真 1 雅楽器 箏の蘆舌

○鵜殿のヨシ原焼き実施連絡対策会によるヨシ焼きの取り組み

ヨシの育成・管理のための鵜殿のヨシ焼きは、「鵜殿のヨシ原保存会」（高槻市道鵜町）や「上牧実行組合」（同上牧町）、高槻市等、地域の多くの方々の参加により継続されている。鵜殿のヨシ原の保全活動は、自治体、地元住民、その他の住民等の多様な主体により、継続的に実施されている。



写真 2 鵜殿ヨシ原のヨシ焼き（2025 年 2 月 23 日）

○雅楽協議会によるつる草抜きの取り組み

雅楽協議会は、雅楽の本質的な位置付けに努め、次世代に文化を継承していくために、雅楽演奏者、関係者が協力し、文化の維持、発展、継承に努める組織として、2005年に設立された団体である。箏用のヨシを再生し、文化を継承するため、「つる草抜き」の取り組みが行われている。



写真 3 つる草抜きの取り組み（2025 年 4 月 12 日）

2 鵜殿ヨシ原の保全対策について

鵜殿のヨシ原では、淀川本川水位の低下、冠水頻度の減少が誘因となり、ヨシ群落の減少、ツル性植物のカナムグラ等の侵入・繁茂が進行してきたことから、1996（平成 8）年から導水路を設置し、1998（平成 10）年 2 月から導水を開始した。また、1999（平成 11）年 6 月に高水敷を切下げた環境を初めて整備し、それ以降に引き続き切下げ地整備を進めている。



★導水路は二方向に設置したが、現在は堤防側の導水路に通水している。
図 2 鵜殿地区の保全対策位置

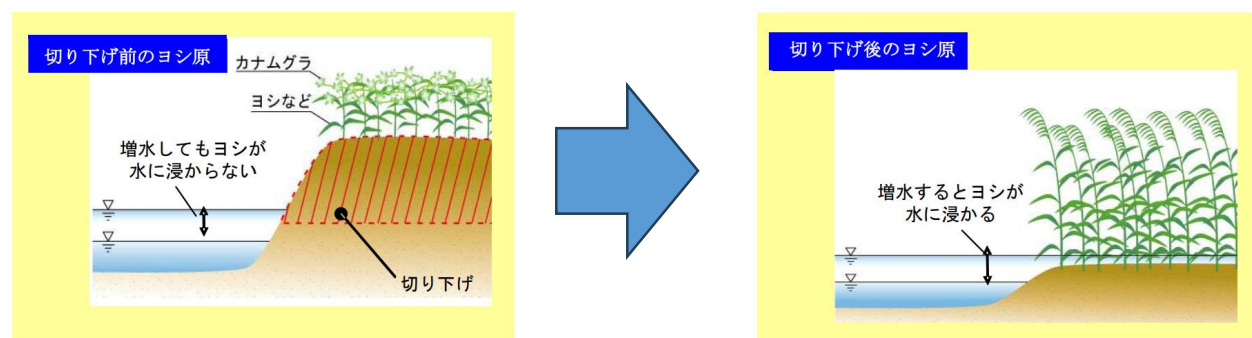


図 3 切下げ対策イメージ

鵜殿ヨシ原において、導水路、切下げ地整備を開始してから現時点で約 30 年が経過し、その間に鵜殿のヨシ群落等の割合は増減を繰り返している（図 4）。令和 7 年秋にヨシ群落等の面積割合は 45%程度を示した。同年にその他の植物群落の面積割合が多かったのは、オオブタクサ群落やクズ群落であった。

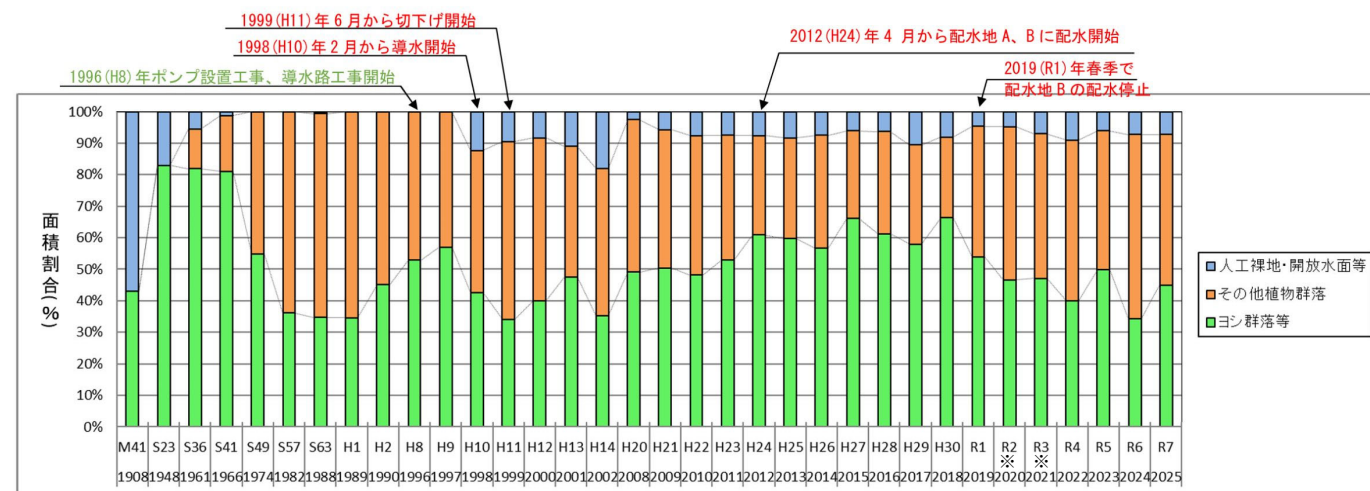


図 4 鵜殿地区全体の植生（群落面積割合）の変化

★平成 20 年以降にオギ・ヨシ群落が新たに定義・追加された。過去との比較のため、「ヨシ群落、オギ・ヨシ群落、オギ群落、カナムグラ・ヨシ群落」をヨシ群落等、「セイトカヨシ群落、セイトカアワダチソウ群落、カナムグラ群落 等」をその他植物群落、「農地（畑地・樹園地）、人工裸地・構造物、開放水面」を人工裸地・開放水面等として示した。

※令和 2 年、令和 3 年は、堆積したヨシの枯死体被覆面を含む。

3 切下げ地対策とその後の維持的措置（追加工事）の経緯について

図 5 に切下げ地整備面積の変遷を示す。1999（平成 11）年 6 月から 2025（令和 7）年までに切り下げた面積は、約 99,000 m²に達する。

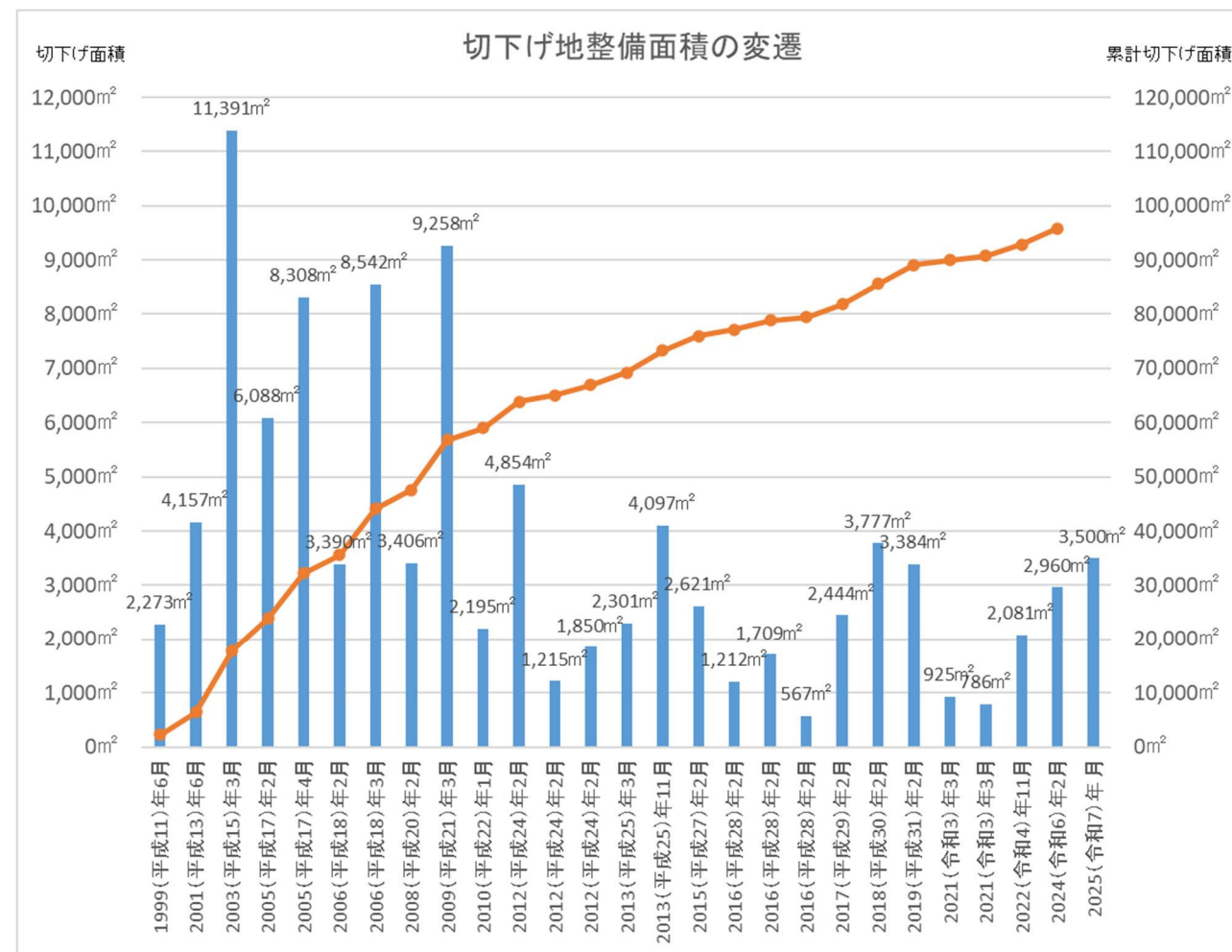


図 5 切下げ地整備面積の変遷

切下げ地の表土施工年月等を表 1 に、切下げ地位置図を図 6 に示す。
1999（平成 11）年の切下げ地 A から順に整備を行い、2024（令和 6）年には切下げ地 Z まで整備が完了した。
その後、2025（令和 7）年 2 月に切下げ地 R6 を整備した。

表 1 切下げ地の施工年月等

		表土施工年月	地表面高さOP+ (施工直後)	備考
本川側	切下げ地 A	1999（平成11）年6月	3.6 , 4.1 , 4.6 , 5.1 , 5.6	・3.6～5.6(5段)0.5mごとに高さを変更して切下げ ・OP+4.6m と OP+5.1m の段ではヨシの発芽が良好
	切下げ地 B	2001（平成13）年6月	5.0 , 6.0 , (7.0→5.0)	・5.0～7.0(3段)1.0mごとに高さを変更して切下げ ・2018(H30)年2月 切下げ地BのOP+7.0の範囲は、切下げ地Uを整備する際にOP+5.0まで切下げ
	切下げ地 C	2003（平成15）年3月	5.0 , 6.0	
	切下げ地 D E	2005（平成17）年2月	5.0	
内陸側	切下げ地 F	2005（平成17）年4月	4.7 , 3.5(たまり)	
	切下げ地 G	2006（平成18）年2月	5.0	
	切下げ地 H	2006（平成18）年3月	5.1	
	切下げ地 I (水路)	2008（平成20）年2月	-	・2008(H20)年2月 内陸側の切下げ地を新川と結ぶ水路を造成 ・2012(H24)年2月 水路勾配は正(逆勾配の是正)のため再掘削 ・2016(H28)年2月 水路断面確保のため再掘削
	切下げ地 J	2009（平成21）年3月	4.95 , 3.5(たまり)	
	切下げ地 K1	2010（平成22）年1月	5.0	
	切下げ地 K2	2012（平成24）年2月	5.0→5.5	・2012(H24)年1月 こぶ状に置土 ・2017(H29)年1月 こぶ状の置土を整正
	切下げ地 L	2012（平成24）年2月	5.0→5.5	・2012(H24)年1月 こぶ状に置土 ・2017(H29)年1月 こぶ状の置土を整正
	切下げ地 M	2012（平成24）年2月	5.0	
	切下げ地 N	2013（平成25）年3月	5.0	
	切下げ地 O	2013（平成25）年11月	5.0	
	切下げ地 P	2015（平成27）年2月	5.0	
	切下げ地 Q	2016（平成28）年2月	5.0	
	切下げ地 R	2016（平成28）年2月	5.8程度*	・2018(H30)年6月 と 2019(H31)年3月 NEXCO工事発生土を試験的に覆土
	切下げ地 S	2016（平成28）年2月	5.0	
	切下げ地 T	2017（平成29）年2月	5.5	
本川側	切下げ地 U	2018（平成30）年2月	5.0	NEXCO工事発生土を試験的に覆土
	切下げ地 V	2019（平成31）年2月	5.0	NEXCO工事発生土を試験的に覆土
	切下げ地 W	2021（令和3）年3月	5.0	
内陸側	切下げ地 X	2021（令和3）年3月	5.0 , 5.5 , 4.9 , 4.7	5.0 , 5.5 , 4.9 , 4.7 (周辺の切下げ高さにあわせている)
	切下げ地 Y	2022（令和4）年11月	6.5	
	切下げ地 Z	2024（令和6）年2月	6.5	
	切下げ地 R6	2025（令和7）年 月	6.5	

*令和4年1月地形図より

2020(R2)年 8 月において、土砂の堆積が進行した本川側の切下げ地を冠水しやすくするため水路を整備した。



図 6 切下げ地位置図

4 鵜殿ヨシ原における植生
(1) 2025(令和7)年の植生図(春季と秋季)

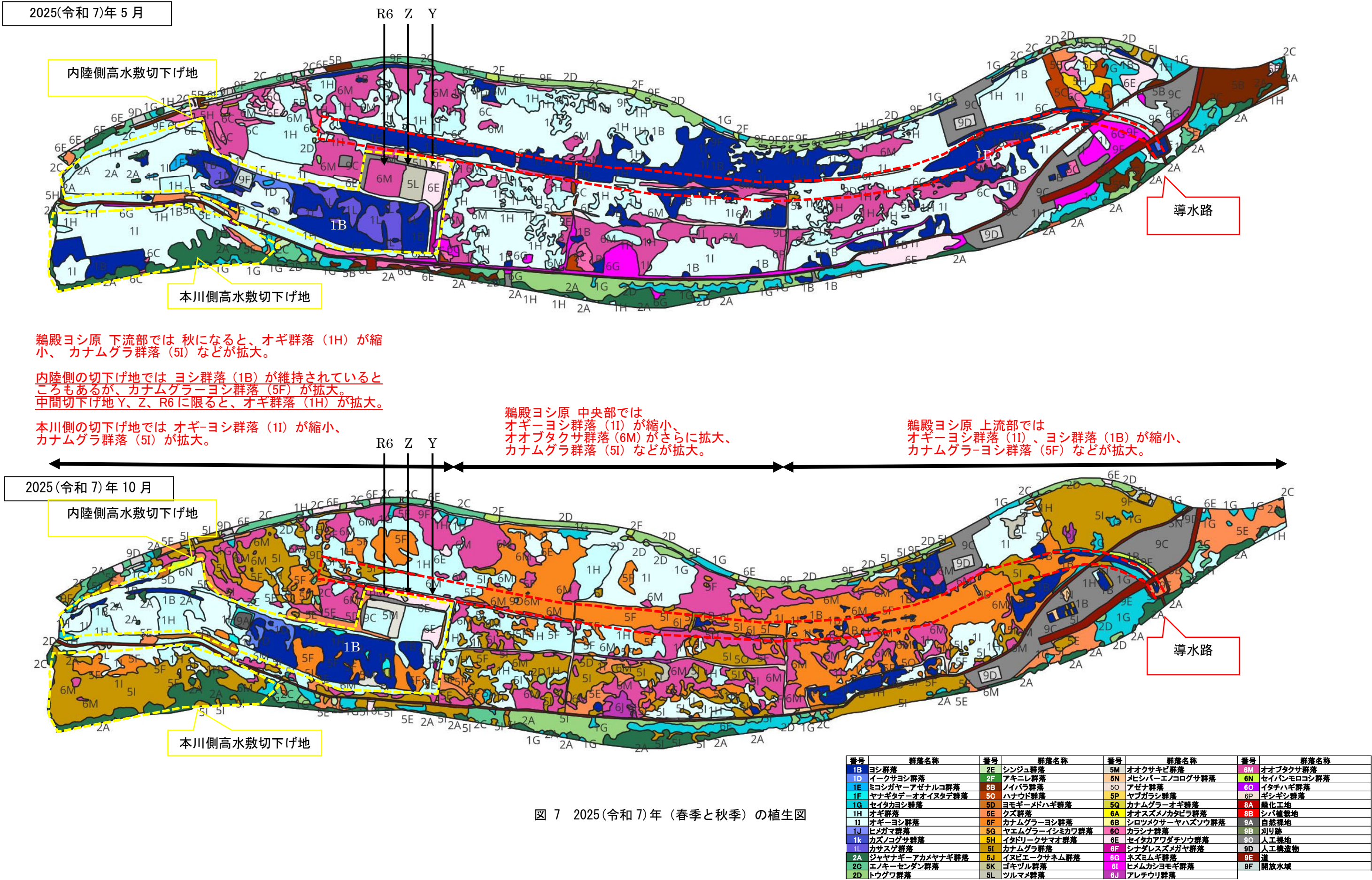


図 7 2025(令和7)年(春季と秋季)の植生図

(2) 2024(令和6)年5月と2025(令和7)年5月の植生図(春季)

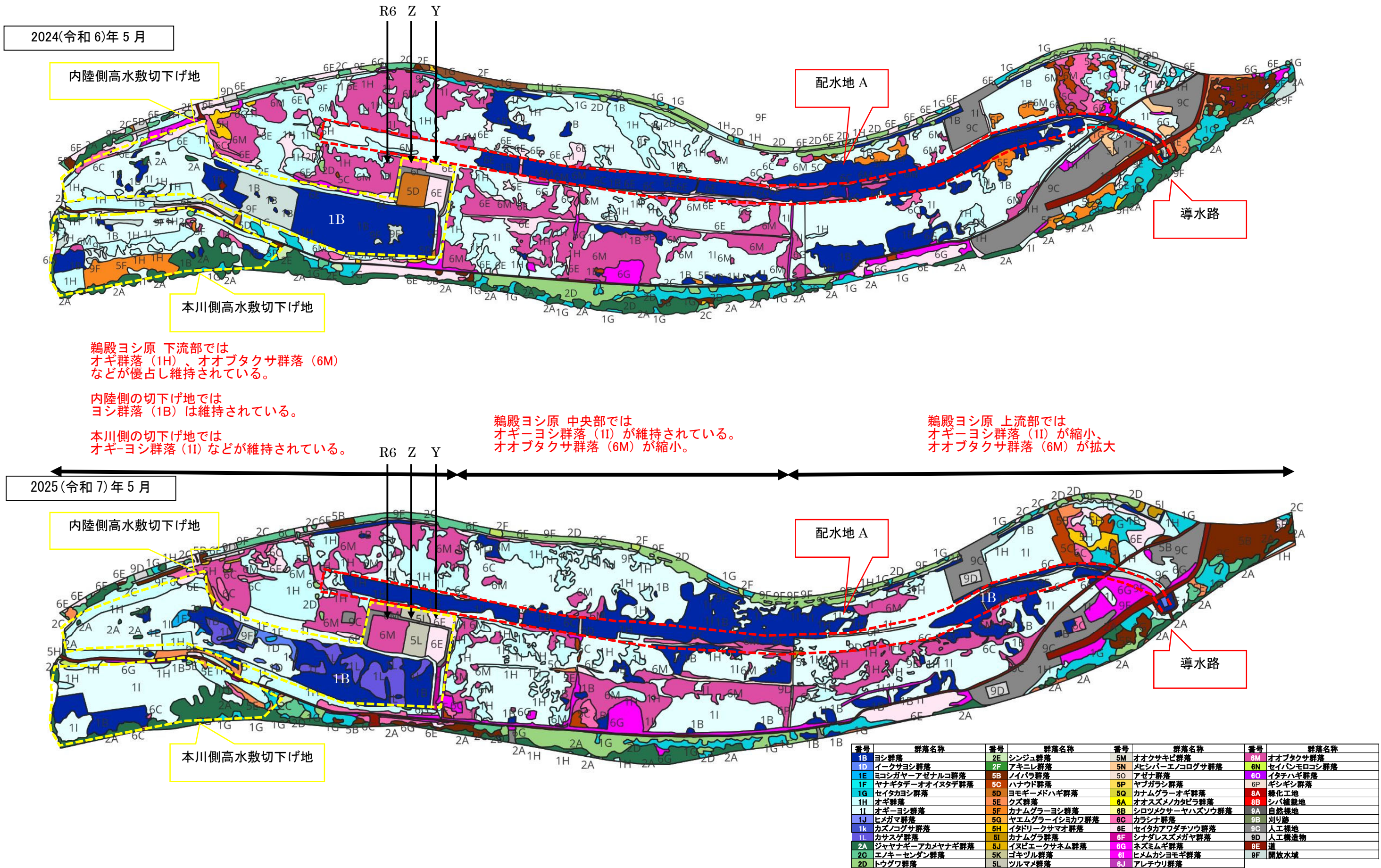


図 8 2024(令和6)年と2025(令和7)年の春季植生図

(3) 2024(令和6)年10月と2025(令和7)年10月の植生図(秋季)

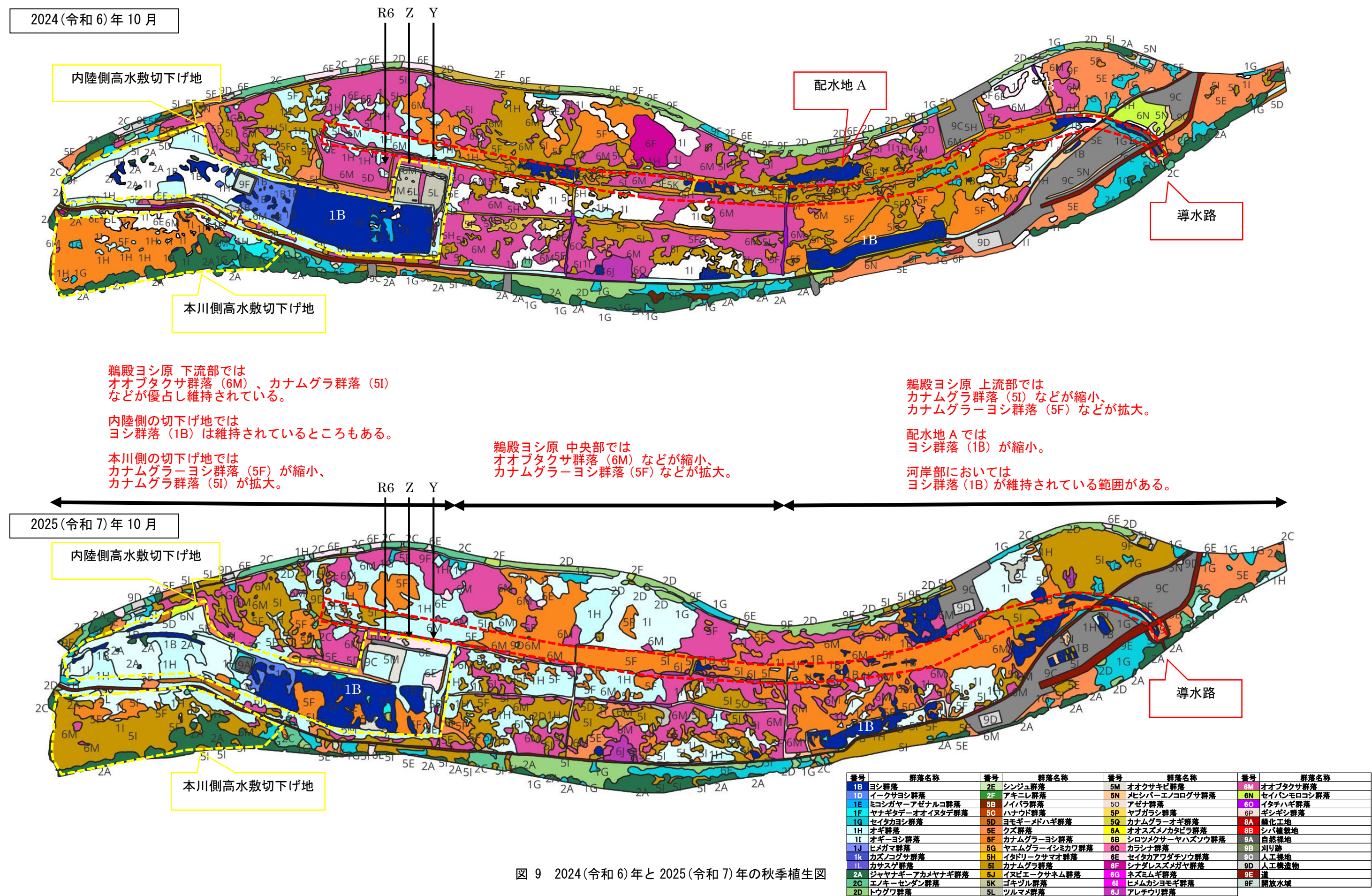


図 9 2024(令和6)年と2025(令和7)年の秋季植生図

令和 8 年度の実施方針について

1) 鵜殿ヨシ原の保全・再生

- 近年、導水路（配水地）において下流のほうまで配水が到達しない事例がある。令和 8 年度に改善対策等を検討する。
- 中間切下げについては、令和 7 年秋になるとオギ群落の生育範囲が拡大した。他方で、内陸側切下げ地の一部でカナムグラ-ヨシ群落の生育範囲が拡大した。これらに注視して、令和 8 年についてもモニタリングしていく。
- 本川側切下げ地においては秋季になるとカナムグラ等のツル草でヨシが倒伏することがある。今後、これらの場所で改善の検討を実施する。